



本 殿

若山神社本殿（わかやまじんじゃほんでん）

若山神社は島本町東南部にある「若山」の中腹に営まれており、大阪府北部から京都府南部までを広く見渡すことができる景勝の地として知られています。この地に神社が創建されたのは大宝元年（701）と伝えられ、当地の氏神として篤い信仰を集めてきました。

本殿は境内の奥にあり、景色のひらける東向きに建てられています。建築年代は江戸時代後期にあたる文化4年（1807）です。社殿の形式は三間社流造ですが、正面の柱の間隔が均等ではなく、中央の間隔が広く、その前面に唐破風さんげんしゃながれづくりが付いているという大きな特徴があります。特に唐破風は、手前に大きく突き出した「向唐破風むこうからはふ」と呼ばれるものです。大阪府内の神社で向唐破風を備える本殿は非常に珍しく、

その堂々とした姿は当本殿の大きな見所と言えます。

よって、若山神社本殿は、建築年代が明らかな北摂地域の優れた神社建築の一つであり、向唐破風を備える貴重な神社本殿として、登録基準（二）「造形の規範となっているもの」に該当するものと評価されました。



※用語説明

三間社（さんげんしゃ） 正面からみて柱間が3つある（すなわち柱が4本立つ）社殿のこと。比較的規模の大きい社殿に用いられることが多い。

流造（ながれづくり） 神社の屋根の形式の一つ。手前側の屋根を長く伸ばして、軒下を参拝の空間とする。

唐破風（からはふ） 弓を横から見たように、中央部分が高く、左右はなだらかな曲線を描いて伸びる破風のこと。軒先に飾りとして付く「軒唐破風（のきからはふ）」と、前面に独立した屋根として設置される「向唐破風（むこうからはふ）」の2種類がある。軒唐破風は神社の屋根によく見られ、向唐破風は大きな屋敷や旅館の玄関などに見られる。